

# 平成22年度 小・中連携研修会報告

吉野東小学校

## 1 研究主題について

「学習・生活習慣を身につけた児童・生徒の育成」  
～9年間を見通した小中連携教育を通して～

本グループは、隣接した一小・一中という関係にある。児童・生徒の実態をお互いに把握し、生徒指導上の問題と学力の向上について具体的に協議し、共通実践事項を決めて取り組むことが、「豊かな人間性」や「確かな学力」などの「生きる力」の育成につながると考えた。

## 2 研究の視点等

- (1) 平成16年度以降の取り組みから、改善されつつある点と現存する問題点
- (2) 今年度の研究主題から
  - ア 児童・生徒の実態把握
  - イ 実態に対しての対応や指導法
  - ウ 課題
  - エ 小・中の共通実践事項

## 3 分科会「生徒指導」報告

日常の取り組み（あいさつ、言葉遣い、服装など）、交友関係、不登校、リーダー育成を中心に情報交換が行われた。その中で、小学校・中学校が連携して取り組んでいくことを協議した。

ア 現在の不登校の状況や、解決策について

イ あいさつ運動の継続的な取り組みについて

あいさつをするときの姿勢や、言葉遣いに指導が必要である。。

小学校・中学校でそれぞれ取り組み、情報を交換し合う。

ウ 自立した児童・生徒の育成について

親による車の送迎が多くなってきている。



共通実践事項

- 1 不登校に対する共通理解・実践を深めていく。
- 2 あいさつ運動・言葉遣いの継続的な指導を行っていく。
- 3 車の送迎を基本的に禁止する。

〔指導講話〕

- 授業参観や設営を通して、子ども一人一人がとても元気だと感じた。
- 小学校では、えんぴつをきちんと使って指導していることが分かった。
- ICT 機器を多く利用していることが分かったので、小中連携して研修を深めていきたい。
- 子どもたちの実態を情報交換しあうことで、小・中連携を更に深めていきたい。

#### 4 分科会「学習指導」報告

平素の授業で大切にしていること、学習のしつけ、学力向上対策などについて情報交換が行われた。その中で、小学校・中学校が連携して取り組んでいくことを協議した。

ア 学力向上対策、各教科での個に応じた指導について

音読の時間の確保、特別支援教育支援員による個別指導を行っている。

小テストの実施、生徒の興味・関心を高める教材や資料を準備している。

イ 学習のしつけについて

話を聞く時の態度について継続指導を行っている（小学校）。

学習訓練授業を行い、成果を上げている（中学校）。

ウ 家庭学習の各学校の実態と子どもたちの取り組みの様子について



共通して取り組むこと

- 1 学習のしつけ、話の聞き方、発表力を身に付けさせる。
- 2 子どもたちの学力向上・・・読み取る力・表現する力の育成
- 3 各教科の系統が小学校から中学校まで分かるよう研究授業などで入れてみるとよい。
- 4 学習のしつけや学力 10 箇条の系統があるとよいのではないだろうか。

〔指導講話〕

- お互いの情報連携が図れた。今回出された実態や系統を踏まえて取り組んでいくとよい。
- 家庭学習も学年に応じて取り組む必要がある。
- 中1から中2になる段階で学力が落ち込む実態がある。子どもたちの意欲がなければ学力が上がらない。学ぶ楽しさや、意欲付けを研究に参加する中で図らなければならない。

#### 5 分科会報告

【国語】

- ・平成 22 年度全国学力調査について（知識が上回っている、活用はやや下回っている）
- ・作文に費やせる時間が限られている。  
（読解のときに言語表現のことを意識づけた指導）→書く意欲付け（目的意識）
- ・中学校では、「初め」「中」「終わり」を強調して文を書かせている。  
（安心して書けるガイドになる）
- ・いい作文を掲示して、子どもに意識づけている。

○共通理解

- ・「」が 2 行以上にわたる場合：小学校＝「」の横のマスは空ける  
中学校＝「」の横のマスは空けない  
↓中学校の初めで押させることで共通理解した。

【社会】

- ・資料を読み取る力が弱い。 ← 入試で資料読解の配点が高い。  
（小中が連携し、反復して取り組むように心がける。）  
（書画カメラなどの ICT 機器活用法を考え、資料活用の力を身に付けさせていく。）

### 【算数】

- ・移行措置の内容を確認（平成22年度の5・6年でも違うので内容把握を行った。）
- ・かけ算,わり算など基本的な計算が中学校でもできない生徒がいるので,基礎基本の定着に力を入れてほしい。
- ・計算過程を消してしまう。どこでミスしているか分からないので,途中の計算もしっかり書くことで共通理解。
- ・文章問題などの式について  
（＝答えを書かない生徒がいるので,式も答えまで書くこと。）
- ・分数の計算は,マスを使って大きな文字でしっかり計算すること。

### 【理科・生活】

- 小学校・水溶液の力がやや劣る（下に沈むという感覚がぬけない）
- ・文章の読み取り,グラフの読み取りが苦手なところがあるので,取り組みが必要。
  - ・全国と比べると,知識理解は上回り、技術面がやや下回る。
  - ・ガスバーナーの使い方,顕微鏡の使い方も再度中学校で指導してほしい。
- 中学校・実験器具が少ないため,全員にさわらせることができない。
- ・理科の授業は好きであるが,テスト勉強の仕方が分からない生徒がいる。

#### 移行措置の確認

- ・3年ゴムや風で動くおもちゃ・・・物と重さが入ってきた
- ・4年・・・骨格
- ・5年・・・電磁石
- ・6年・・・手回し発電機・・・光・音・風力,発電、蓄電
- ・中学1年→中学3年 イオンが入ってきた

※マッチに抵抗がある児童・生徒がいる。本数を決めて使わせる。

### 【音楽】

- ・中学校では,音符が読めて楽譜付きの歌詞で歌ってほしいので,階名が読めるように小学校のうちに指導してほしい。
- ・小学校,中学校とも行事に音楽の時数がかかることが多く,実際の授業で指導する時間がなかなかとれない現状がある。
- ・中学校：選択制だった内容が全部するようになる。楽器等が十分そろっていないものもあり,しっかりと学習を進められない不安がある。

#### ○共通理解

- ・音符が読める→歌いたい・楽器を使って演奏したいという気持ちになる。  
→音楽が好きになっていくので,まず音符が読めるようにしていく。

### 【図工・美術・技術】

- ・小学校で2～4時間かかる絵画指導も,中学校では9～10時間かけて指導・制作する。
- ・小学校のうちに彫刻刀・刃物に使い慣れてほしい。
- ・内面的なものを評価していけるように,小中互いに子どもたちを褒めてのばしていく。
- ・小学校では,作品制作に夢中になれるが,中学校では他の生徒と比べ,理想とのギャップで意欲をなくす傾向もみられる。

## 【家庭】

- ・保護者の協力がよく得られている。励ましの言葉もあり,やる気を起こしている。
- ・家庭科の学習→家庭での実践
- ・金銭や物の使い方など,全くできていない子もおり,個人差を感じる。
- ・保護者との連携を図りながら,今後も進めて行く必要がある。
- ・ミシンは家庭にない家もあり,実践力につながらないことも多い。

### ○共通理解

- ・家庭科で学習することは,今後実生活につながるものなので,そのことを児童生徒に伝えながら,指導を大切にしてく。

## 【体育】

- ・小学校：握力が少し劣っているので対策が必要。  
(サーキットトレーニング：うんてい,登り棒)
- ・走の力は高い。特に長距離は力がある。
- ・遊びの中で球技の力を付けさせたい。  
(外遊びの奨励の工夫)
- ・一輪車,なわとび→時期が早ければ早いほどよい。  
小学校のうちに習得 (用具の整備)

## 【英語・総合・外国語活動】

- ・中学校へ入学するときに,英語に対して不安を抱いている生徒が多い。小学校でも外国語活動を行っているが,『中学校英語』に対しての不安があるようだ。  
→2月に中学校教諭が,6年生各クラスで中学校英語の授業をしていただける。
- ・小学校で学習するローマ字の定着をもっとあげてほしい。  
→中学校4月,ローマ字テストで昼休みに追試などの指導が必要な生徒が多い。  
(6年生冬休みの宿題に4枚ほど挿入するなど,対策をとる。)  
(6年生の3学期の宿題などに,アルファベットの書き順,ドリル等の反復練習が必要)

## 【特別支援教育】

- ・特別支援が必要な児童・生徒についての情報交換
- ・小学校から中学校につながるような連携のとり方をしていきたい。